

令和6年度施設自己評価の結果について

公表：令和 7 年 1 月 21 日

事業所名

天竜厚生会りいお

国から示された「放課後等デイサービスガイドライン」に基づき、事業所職員が自己評価を実施しました。事業所における課題点及び改善すべき点を今一度確認し、今後の当会及び当事業所の運営に活かしていきます。今後ともご家族様と共によりよい事業所を目指していきたいと思っておりますので、ご理解・ご協力いただきますよう、お願いいたします。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境 ・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	0	もともと定員20名で開所したこともあり、スペースは確保されている	
	②	職員の配置数は適切である	7	0	0		
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	0	0	・特に児童が生活する場所は、物の配置や片付けを意識している	
業務 改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	1	0	・職員人数を確保できるところで支援会議を実施している ・業務で気になったことはミーティングなどを通して意見を伝える機会があり、参画しやすい環境である ・目標設定は職員間で共有されている	
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	0		・意向を把握し、直接支援・間接支援関わらず、できることがあれば話し合って改善していきたい
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	0		
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3	2		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	0		
適切 な 支 援 の	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0	・児童発達支援管理責任者が保護者と面談し計画を作成し、それを職員間で共有している	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	0		
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0	・活動担当以外でも取り組みたい活動や案をできるだけ幅広く出し合っている ・話し合いの場を設け、立案している ・適宜、助言を受けられる	

提供	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	1ヶ月の中で同じ活動を行わないように構成を配慮している	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	2	1	・外出など、長期休暇ならではの活動ができるように設定している	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	0	・個別課題がある児童は教材を用意し、実施している ・個々の計画目標に合わせ、活動を考えている	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	2	0	・打合せに出席できない場合は、業務ファイルや引継ぎ等で情報収集に努める	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	3	2	・記録入力で共有をしているが全体での打ち合わせは行っていない	・開始前に前日の振り返りをしっかり行えるようにする
	⑰	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0		
	⑱	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	6ヶ月に1回モニタリングを行い、計画の見直しを行っている。	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	1	0	・創作活動では園芸を取り入れ、自然に触れる機会を設けている。また余暇の提供では様々な活動プログラムを用意している	
	適切な支援の提供	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	0	
㉑		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6	1	0	・送迎ミスなどがあった場合は謝罪し、適切な対応を考え、正規職員へ報告し対応している ・状況に応じて情報共有を行っている	
㉒		医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	4	0	・該当児童はいない ・該当する児童が入れば、必要に応じて情報共有できるよう努めていく	
㉓		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との情報共有と相互理解を努めている	5	2	0	・該当する児童が入れば、必要に応じて情報共有できるよう努めていく	
㉔		学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	4	0		
㉕		児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	4	0		
関係機関や保護者との連携	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	1	4	夏休み期間に中学生（ボランティア）との良い関わりが持てた	

	⑳	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	1	6	0		
	㉑	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共有理解を持っている	6	1	0	事業所での様子を保護者にお迎え時に直接伝えたり、連絡ノートに記載したりしている	
	㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	5	2		
保護者への説明責任等	㉓	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	0		
	㉔	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	0	・迎えの際に相談を受けた場合は、その都度対応し、正規職員に報告している	
	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	3	4		
	㉖	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0	・職員会議、ケアカルテ等で情報共有し周知している	
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	0		
	㉘	個人情報に十分注意している	7	0	0		
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0		
非常時等の対応	㉚	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4	0	・コロナが落ち着き、イベントを開催して地域に発信している	
	㉛	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1	0		・周知しているが、定期的に確認する必要がある
	㉜	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	・月1回、様々な想定で避難訓練を実施している	
	㉝	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0	・研修機会を確保している	
	㉞	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、個別支援計画に記載している	3	3	1	・対象児童はいないが、そのようなことになった場合は、保護者に十分な説明をしていく	
	㉟	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1	0	・対象児童がいれば、保護者から確認し、マニュアルに沿って対応していく	
	㊱	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0	・職員会議や申し送りの時、どのような出来事があったのか掘り下げ、共有している	

